

ノボシビルスク派遣事業 報告書

中学2年 高橋 希花

<はじめに>

今回、私が、この姉妹都市交流事業に参加した理由は、主に2つある。1つ目に、海外の文化や生活に、興味があったからである。ロシアには、どのような文化があるのか、日本と比べて、どのような点に、生活の違いがあるのかと、調査したいと考えた。2つ目に、英語力を高めたいと考えたからである。約10日間のホームステイで、ホストファミリーとの会話は全て英語なので、自分の英語力を高められると考えた。

実際に行ってみて、特に印象深かった事について、述べていく。

<ロシアの食事>

ロシアの郷土料理と言えば、ボルシチや、ピロシキと言ったものを思い浮かべる人が多いのではないだろうか。ここでは、そういった郷土料理や、私が食べた物などを紹介していく。

ロシアには、コンビニエンスストアはないが、スーパーマーケットがいたるところにあった。また、道を歩いていると、いたるところに、アイスクリームスタンドがあり、アイスを食べながら歩いている人もいた。私のホストファミリーもアイス好きで、毎日アイスを買ってくれた。多い日には、1日3つもアイスを食べさせてくれたことがあった。パートナーの子に、1日どれくらいアイスを食べるのか聞いてみると、「9個!」と、言っていて、聞き間違いかと思い、もう1度聞いたら、本当に9個だった。しかし、パートナーの子は、太ってもしないし、道行く人も、太っている人は、いなかったため、不思議だと考えた。ロシア人は、アイスが好きなのだろうと考えた。1つ1つのアイスが安く、手軽に食べられた。



写真1は、ホストファミリーの家で食べたペリメニというシベリアの郷土料理である。簡単に言うと、ロシア風の餃子で、皮の中に、ひき肉が入っているもので、温かい食べ物だ。このペリメニに、サワークリームなどをつけて食べた。私は、ペリメニを、何もつけずに、そのままの味で食べるのが、おいしいと思う。

写真2は、オクローシカという、ロシアの冷たいスープである。これは、ホストマザーと、パートナーが作ってくれたものだ。ゆでたじゃがいもや、サラミ、玉ねぎ、野菜の葉を混ぜたものに、ウワスという、ビールのおいと味がする飲みものをいれて食べる。ウワスは、炭酸でビールのようなものだったので、野菜ポウルに入れた時は驚いた。私は、オクローシカがビールの味がするので苦手だったが、パートナーや、妹は、サワークリームを入れて、おいしそうに食べていた。



<ロシアでの生活>

ロシアでは、日本と同じように、玄関で靴をぬいだ。しかし、靴をぬぐところ、家の中には、段差がなく、どこまでが玄関が分からないような感じである。また、家のトイレでは、トイレットペーパーを水と一緒に流すことができたが、航空券、お店、レストランでは、トイレットペーパーは、トイレットペーパーのごみ箱に捨て、水は水だけで流すというものだった。もちろん、ウォッシュレットはなく、改め、日本のトイレ、排水は、進んでいると、実感した。私のホストファミリーだけかもしれないが、お風呂に入った後、髪の毛は、自然乾燥だった。私が「ドライヤー借りてもいいですか?」と聞くと、クローゼットの中から箱を取り出して、ドライヤーを使わせてくれた。そのため、普段はドライヤーを使わないのだと考えた。

ロシアでホームステイを始めて、私が考えたことは、日本人に比べて、ロシア人は、時間をあまり意識しないということが分かった。朝の9時30分集合だったが、私は約10分遅れた。その後のプログラムでも、参加者全員が集合時間までに集まったことはなかった。また、朝、昼、晩の、1日3食はとるが、ごはんを食べる時間帯は、決まっておらず、お腹が空いた時に、ごはんを食べるといった感じだった。私が驚いたのは、日本時間で夜中の1時過ぎに、レストランに連れていかれ、お腹一杯食べさせられたことだ。時間を守る日本人にとっては、時間を守らないロシア人のことを、不快に感じることもあったかもしれないが、これも、ロシアの文化、ロシア人の特徴の一つとして、とらえることができるのではないだろうか。

ロシアは日没の時間が遅く、右の写真は、1ボジビルスクで夜の9時の公園で、とても明るい。そのため、ロシアの人は、夜でも、元気一杯で、子供たちも、夜の9時でも、元気に遊んでいた。日没が遅いので、ロシア人は、日本人に比べて朝から夜まで長い時間、色々なことに、時間を費やすことができる考えた。



<おわりに>

私は、今回の研修で、予想以上のことを学び、予想以上の楽しい11日間を過ごすことができました。最初の頃は、コミュニケーションができるかどうか不安だったが、日にちが経つにつれて、自然と口から英語が出て、自分の中で、英語力が高まったと感じた。また、自分がやりたいこと、思っていることを、相手に理解させるために、言語だけではなく、ジェスチャーなどを取り入れて、コミュニケーションできた。この研修で学んだことを、将来の職業に活かしたり、私の周りの人々に、ロシアの素晴らしさなどを伝えたりしていきたい。

